

ジェネリック学会、後発医薬品、夏にも治験。

日本ジェネリック医薬品学会(理事長・武藤正樹国際医療福祉大学教授)は今夏にも、特許が切れた新薬と同じ成分を使った後発医薬品の効果や副作用を市販後に確かめる治験(臨床試験)を始める。医師や薬剤師が後発薬を不安視し採用に消極的なケースがあるため、製薬会社などとは別に学会主導で効果などを確認し、利用促進を目指す。

同学会は後発薬を臨床的、社会経済的に検証する目的でこの春に発足した。高脂血症や高血圧など症例ごとに病院を選び、臨床試験を実施する。例えば、それぞれの症例について患者を二十―三十人集め、新薬と後発薬を交互に服用してもらい、効果や副作用との差などを調べる。

結果は学会誌やホームページなどで公表する。学会推奨リストも作り、病院や調剤薬局、健康保険組合に提供する。後発薬は新薬よりも安いことから医療費の抑制につながると期待されているが、医薬品全体に占める数量は約一七%にとどまっている。

[6月8日/日本経済新聞 朝刊]